

第5学年 学級活動（3）学習指導案

広島県立教育センター
指導主事 岡本 美香

1 題材 「様々な種類の本に触れることによさって何だろう」

学級活動（3）一人一人のキャリア形成と自己実現

ウ 主体的な学習態度の形成と学校図書館等の活用

2 題材について

（1）児童の実態

本学級の児童は、全校で取り組んでいる毎朝の10分間読書や週末読書などの常時活動の他、年度当初には「特別教室の使い方を知ろう」の学習で、学校図書館の使い方や百科事典など様々な本を使って調べることの良さを学習してきている。コロナ禍において、学級文庫を設置したり休憩時間の学校図書館の利用を学年ごとに曜日を設定したりすることで、これまで読書に消極的だった児童も含む全児童の確実な学校図書館の利用が活性化された一面がある。また、国語科を中心に、総合的な学習の時間や社会科、理科の学習等においても、司書教諭との連携によって学校図書館を活用した調べ学習を計画的に仕組んだことで、図書を活用した自主学習にも増加の傾向が見られる。しかし、児童の図書の貸出しの状況を見ると、その種類には偏りがあることが分かる。下の表は、4・5月の2か月間における本学級の児童が借りた図書のNDCの割合である。NDC9（文学）が全体の約6割を占めるのに対し、他は1割に満たないものが多い。特に、NDC8（言語）においては、年間を通して全学年に対する貸出しのない月が続く状況がある。また、個々の読書記録カードを見ると、授業における調べ学習での活用以外は、NDC9（文学）の図書しか借りていない児童も数名いる。

表 4・5月の2か月の間に貸出した図書の割合（NDC分類）

NDC	0 総記	1 哲学	2 歴史	3 社会科学	4 自然科学	5 技術	6 産業	7 芸術	8 言語	9 文学	合計
%	0	1	13	5	9	4	6	3	0	59	100

（2）題材設定の理由

本題材では、これまでの読書活動の振り返りを基に、今後の読書活動を見直して計画し、その後の実践と振り返りによって様々な種類の図書を活用することのよさを実感させたい。これまで手に取る機会が極めて少なかった種類の図書を活用することの楽しさを味わうと共に、自分自身の読書活動を振り返ったり学校全体の読書活動の課題を知ったりすることで実践意欲を高め、学校図書館の活用や様々な種類の図書に触れる読書活動の取組の具体を自己決定させていくようにする。この題材を通して様々な種類の図書に触れることで、現在や将来の学習と自己実現のつながりを考えたり、自主的な学習のために学校図書館や図書を活用したりすることを促し、主体的な学習態度を形成していきたいと考える。

(3) 指導に当たって

本題材では、事前の司書教諭との連携によって、学校全体の図書の貸出し状況や図書を活用した読書活動の準備を行っておく。本時では、導入「つかむ」の段階で、学級でも学校全体でも手に取られることが極めて少ないNDC 8（言語）の図書を用いた読書活動の楽しさを味わわせるとともに、司書教諭から、学校図書館で貸し出される図書の種類の偏りと偏りの解消に向けた取組への協力依頼を内容としたメッセージ動画を紹介する。これらによって、手に取る機会が少なかった種類の図書の活用のよさの実感と共に、自分自身や学校全体の学校図書館の活用や読書活動における課題を把握させることで、様々な種類の図書のよさを知り、そのよさを他学年へ伝えるというめあてをつかませる。次の展開「さぐる」の段階では、偏りの原因を考え、解決に向けた方向性や取組の必要性について話し合う。続く「見付ける」の段階では、具体的にどんな取組によって様々な図書のよさを知ったり他学年に発信したりすることができるか考え、意見を出し合う。終末「決める」の段階では、「見付ける」で出された意見を基に、自分がどのように読書活動に取り組むか自己決定させる。

事後には、他学年への発信に向けて自己決定したことを実践できているかどうか自己評価や指導者による評価を行い、できていることを肯定的に評価し、さらなる実践の充実を図る。また、本時で意思決定した取組の期間終了時には、実践を振り返る時間を設定し、自身の取組に対してよかったところやもう少し改善したいところなどを明らかにすることで、その後の新たな見通しとする。また、本題材で扱った図書とその後の国語科「日常を十七音で」の学習との関連についても触れ、俳句への興味や関心をもたせることで、各教科等の学習と関連させた学校図書館の活用の一層の充実を図りたい。

3 第5学年及び第6学年の評価規準

より良い生活を築くための知識・技能	集団や社会の形成者としての思考・判断・表現	主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度
効果的に学校図書館を活用することの意義を理解し、見通しをもつことや振り返りを生かした取組の進め方を身に付けている。	効果的に学校図書館を活用するための課題を認識し、解決方法などについて話し合い、自分に合った解決方法を意思決定して実践している。	効果的に学校図書館を活用するために、見通しをもったり振り返ったりしながら、自己のよさを生かし、他者と協働して、自主的に活動に取り組もうとしている。

4 事前の準備

- ・児童に4月以降の読書記録カードの集計を行わせ、自身の読書冊数とともにNDCごとの読書冊数を把握させる。
- ・本時で使用するための学校司書からのメッセージ動画を作成する。メッセージ動画には、手に取られにくい種類の本のよさや学校全体の読書活動における図書の種類の偏りに関する状況報告とともに、様々な種類の図書やそれらを読むことのよさについて、全校へ呼びかける活動への協力依頼を盛り込む。

5 本時のねらい

様々な図書に触れることよさに気付くとともに、自分自身や学校全体の読書における課題を見付け、課題の解決のために必要な取組について話し合い、自分に合った取組を自己決定して実践できるようにする。

6 本時の展開

	児童の活動	指導上の留意点	資料	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
導入 つかむ	<p>1 読書活動「言葉が飛んでいった」を行い、言葉の美しさを味わう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「言葉が飛んでいった」のルールを確認する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・作品カード ・言葉カード (抜いた言葉) 	
	<p>・「言葉が飛んでいった」を行う。</p> <p>・「言葉が飛んでいった」を行った感想を交流する。</p>	<p>・正解か不正解かよりも、言葉の美しさを味わわせる。</p>		
	<p>2 司書教諭からのメッセージ動画を見て、様々な種類の図書に触れることよさやそのための学校図書館の活用の仕方について知るとともに、学校全体の読書活動において読まれている図書の種類に偏りがある現状と、司書教諭からの要望を知り、解決すべき課題を見付ける。</p>	<p>【メッセージ動画の内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1で扱われた俳句が、NDC8(言語)の句集から選んだ作品であること ・児童が手に取る機会の少ないNDCの図書やそれらに触れることよさの紹介 ・学校全体で読まれている図書のNDCの偏り・様々な種類の図書の活用を促すための取組への協力依頼 	<ul style="list-style-type: none"> ・司書教諭からのメッセージ動画 ・全校のNDC別貸し出し状況のグラフ ・クラスのNDC別貸し出し状況のグラフ ・読書記録カード 	

【言葉が飛んでいったルール】

- ・グループごとに、一部分を抜いた詩(俳句)を配る。
- ・抜けている部分に入る言葉を考える(個人)。
- ・グループで意見を交流する。
- ・各グループに配られた詩(俳句)と出された意見を発表する。
- ・作品を読み上げる。

全校が様々な種類の図書に触れるための作戦を考えよう。				
展開 さぐる	<p>3 読書に偏りがあることの原因を整理し、解決に向けた方向性を明確にする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・偏った種類の図書のよさしか知らない。 ・これまで触れることが少なかった種類の図書の楽しさやよさを伝える必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の読書記録カードを基に、自身の読書活動を振り返らせることで、課題を自分事とさせる。 ・偏りが、様々な種類の図書の楽しさや有用性について知らないことに起因していることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書記録カード ・図書室の利用風景画像 	
見付ける	<p>4 全校が様々な種類の図書のよさを知るための作戦を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作戦を考える。 ・それぞれの作戦のよさと留意点を出し合う。 ・実行する作戦を吟味する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カードを用意し、一人一人が考えた上で話し合うことができるようにする。 ・作戦を Jamboard の付箋に記入させる。 ・各作戦のよさや想定される問題点や留意点を記入させる。 ・効果や実施可能かどうか注目させる。 ・作戦は複数あってよい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カード ・Jamboard 	<p>◎これから目指す読書活動を明確にし、そのために必要なことについて考え、前向きに話し合っている。</p> <p>【思考・判断・表現】 〈観察・学習カード〉</p>
終末 決める	<p>5 各自が参加する作戦を選び、取組の方向性を明らかにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加希望を基に、話し合っ てメンバーを決定する。 ・取組に対するめあてをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ここまでの話合いで出された意見などを基に、自分に合った作戦を選び、実践に向けためあてを学習カードに記入するよう伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Jamboard ・学習カード 	<p>◎話し合ったことを生かして、自分が実践することを意思決定している。</p> <p>【思考・判断・表現】 〈観察・学習カード〉</p>

7 事後の指導

児童の活動	指導上の留意点	◎目指す児童の姿 【観点】〈評価方法〉
自己決定した作戦についてめあてを意識して実践する。	<ul style="list-style-type: none"> ・作戦の進行状況を掲示などによって見える化し、実践への意欲付けとなるようにする。 ・取組に必要な児童個々の読書活動や学校図書館の活用を評価する。 	◎自己決定したことを実践している。 【思考・判断・表現】 〈観察〉〈実践（作戦）に係る掲示物〉〈読書記録カード〉
実践について振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを行う機会を設定し、計画的な取組となるよう促す。 ・司書教諭や他学年の児童からの反響をフィードバックし、更なる取組への進化改新を促す。 	◎実践を振り返り、現在及び将来に向けての学校生活や日常生活に生かそうとしている。 【主体的態度】 〈振り返りカード〉